

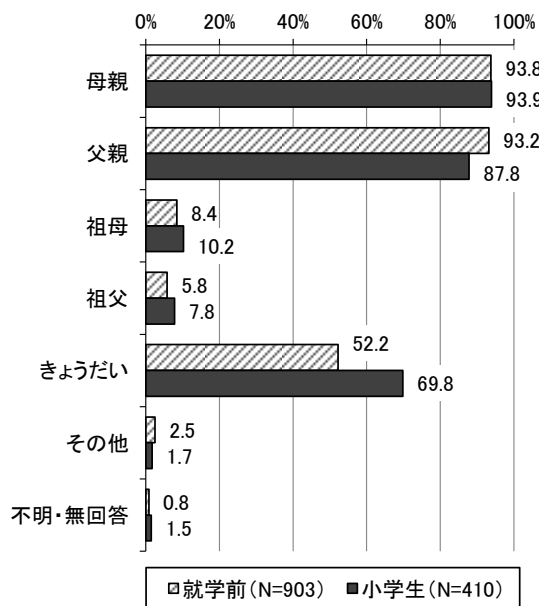
5 ニーズ調査の結果

- ◆緊急時もしくは用事の際、子どもを預けられる親族等が「誰もいない」という方が就学前児童、小学生ともに1割半ばとなっており、親族からの子育て支援を受けにくい子育て世帯がいる様子がうかがえます。
- ◆共働き世帯は就学前児童で半数程度、小学生で7割程度となっています。仕事と子育ての両立支援として、就学前児童、小学生ともに「児童育成クラブや保育所（園）、認定こども園等の整備」、「子どもや自分が病気やケガをした時に、面倒をみてくれる人や保育サービスがあること」へのニーズが高くなっています。
- ◆同年代の子どもを持つ親同士の付き合いについて、多くの方は相談相手となる友人がいると回答していますが、就学前児童では「同年齢の子どもの親との付き合いはあまりない」の割合が、前回調査から上昇しています。
- ◆草津市は子育てしやすい市だと思う方の割合は就学前児童、小学生ともに7割以上となっており、前回調査から上昇しています。
- ◆充実してほしい事業については、就学前児童では「幼稚園や保育所（園）、認定こども園等にかかる費用の軽減」、小学生では「公園や歩道の整備」が最も高くなっています。また、就学前児童、小学生ともに「子どもの遊び場」が2番目に高くなっています。

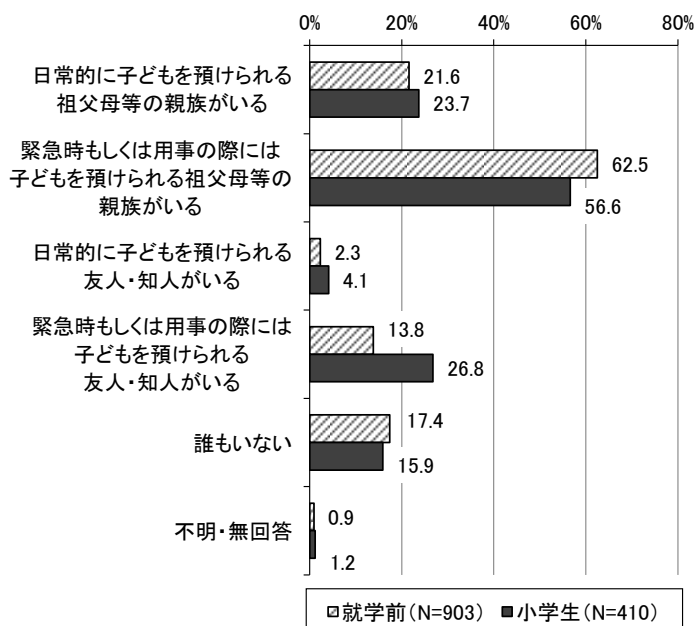
(1) 家庭の状況について

- 子どもと家族の同居の状況をみると、就学前児童、小学生ともに「母親」「父親」が9割程度、「祖母」「祖父」と同居している人は約1割以下となっています。
- 日頃、子どもを預けられる人の有無をみると、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる祖父母等の親族がいる」が最も高く、就学前児童では62.5%、小学生では56.6%となっています。一方で、「誰もいない」は就学前児童、小学生ともに1割半ばとなっており、前回調査とほぼ同様の傾向となっています。
- 子育て（教育）を主に行っている人についてみると、就学前児童、小学生ともに「主に母親」が半数以上、「父母ともに」が4割台となっています。

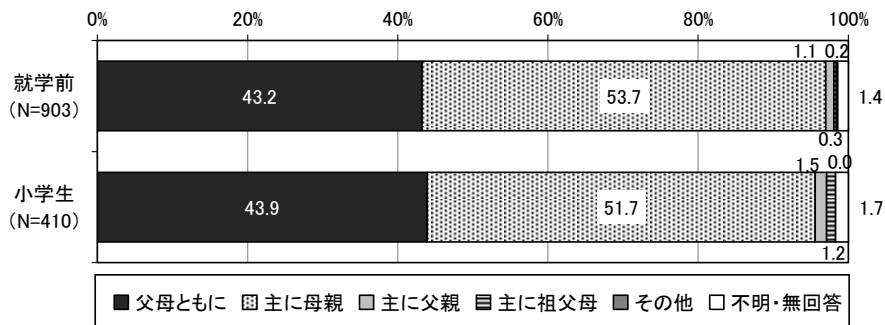
■子どもと家族の同居の状況〈複数回答〉



■日頃、子どもを預けられる人の有無〈複数回答〉



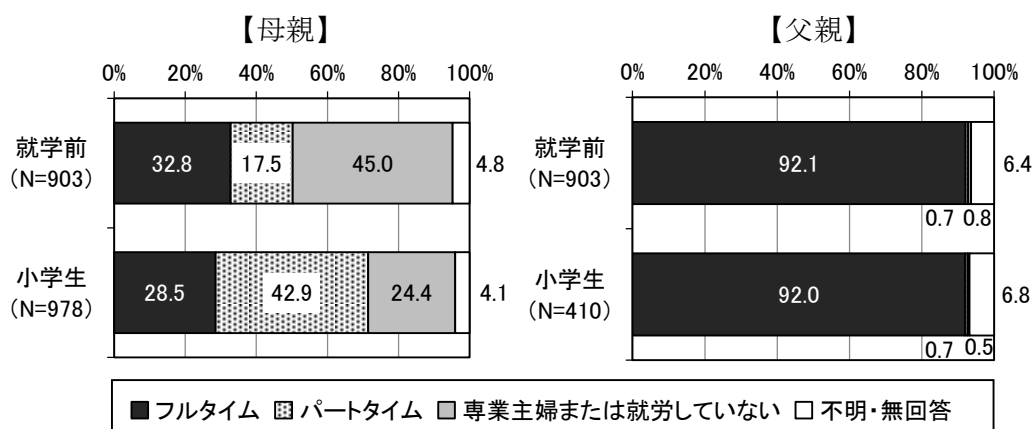
■子育て（教育）を主に行っている人〈単数回答〉



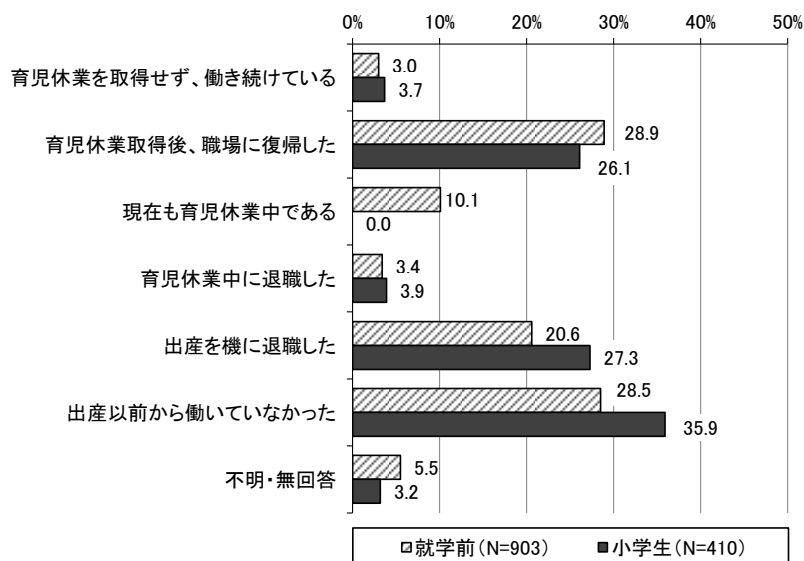
(2) 保護者の就労状況と子育てと仕事の両立について

- 保護者の就労状況を見ると、母親については、就学前児童で『就労している（「フルタイム」または「パートタイム」を選択）』が50.3%、「専業主婦または就労していない」が45.0%となっています。小学生では『就労している』が71.4%と高く、「専業主婦または就労していない」が24.4%となっています。
父親については、「フルタイム」の割合が就学前児童、小学生ともに9割程度となっています。
- 母親の育児休業の取得状況についてみると、就学前児童で「育児休業取得後、職場に復帰した」が28.9%、「出産以前から働いていなかった」が28.5%となっています。小学生では「出産以前から働いていなかった」が35.9%と最も高く、次いで「出産を機に退職した」が27.3%、「育児休業取得後、職場に復帰した」が26.1%となっています。
- 仕事と子育てを両立する上で必要なことについてみると、就学前児童、小学生ともに、「児童育成クラブや保育所（園）、認定こども園等の整備」、「子どもや自分が病気やケガをした時に、面倒をみてくれる人や保育サービスがあること」が上位2位となっています。

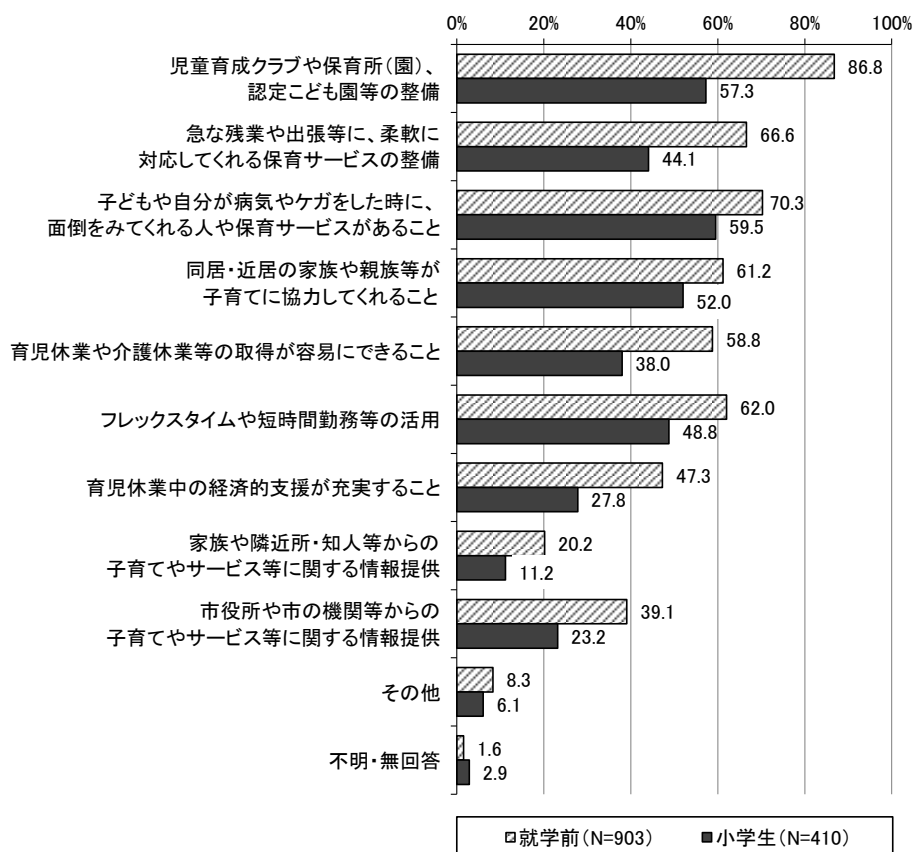
■保護者の現在の就労状況〈単数回答〉



■母親の育児休業の取得状況〈複数回答〉



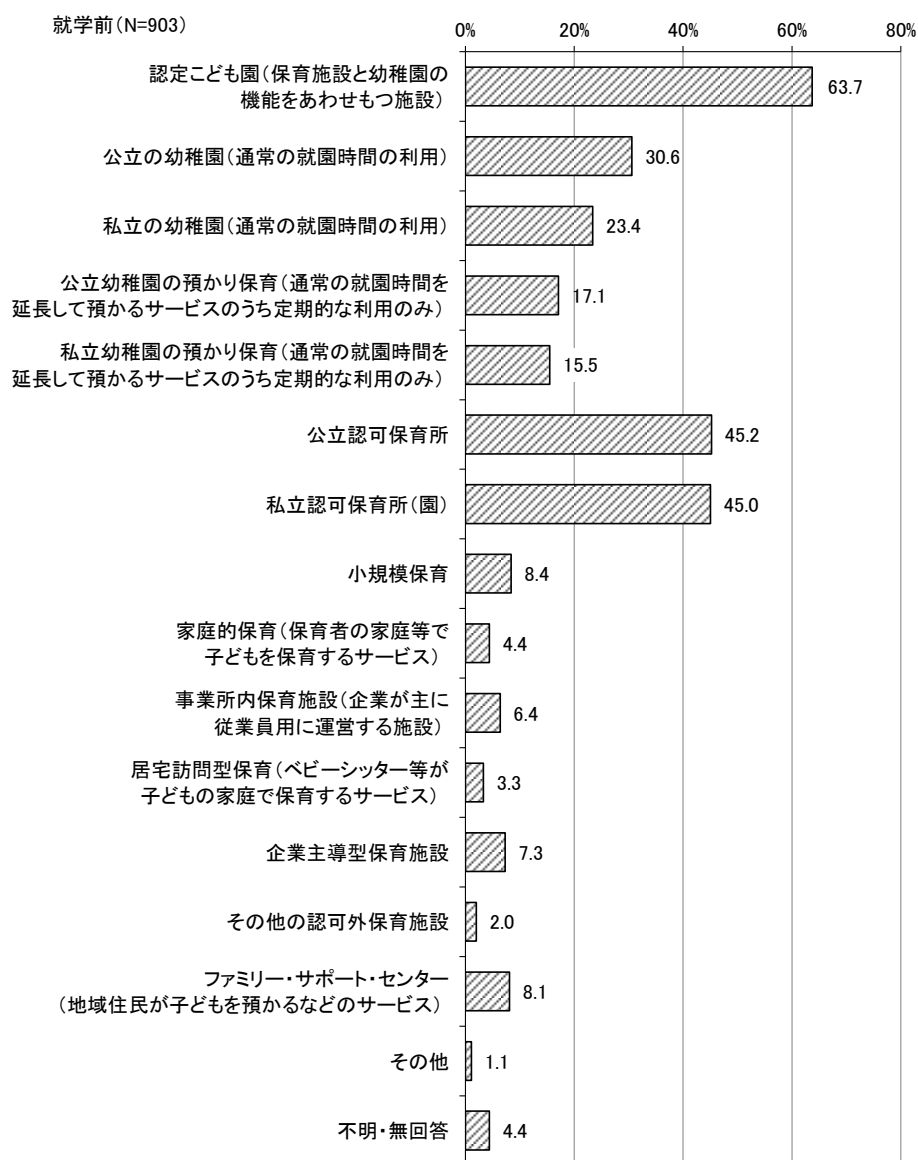
■仕事と子育てを両立する上で必要なこと〈複数回答〉



(3) 平日の定期的な幼稚園や保育所(園)、認定こども園等の利用希望について(就学前児童のみ)

● 幼児教育無償化の内容を踏まえて、現在の利用の有無にかかわらず、今後利用したい事業では、「認定こども園」が63.7%、「公立認可保育所」、「私立認可保育所(園)」が4割半ばとなっています。

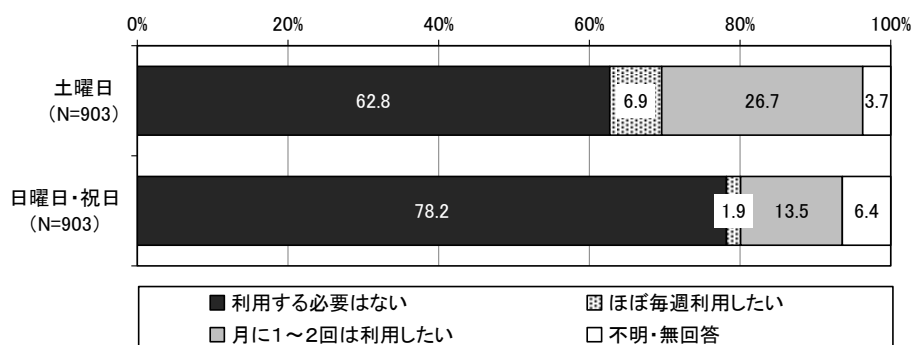
■ 幼児教育無償化の内容を踏まえて、現在の利用の有無にかかわらず、今後利用したい事業(複数回答)



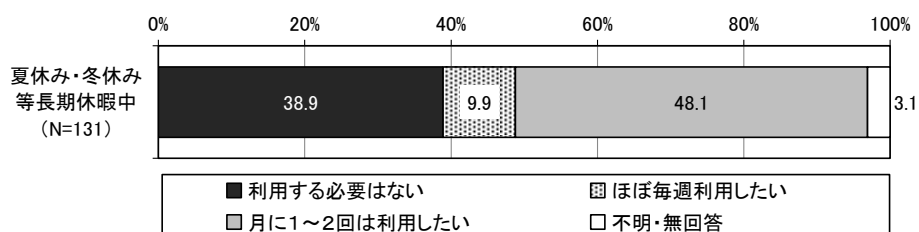
(4) 土曜日・休日や長期休暇中の定期的な幼稚園や保育所(園)、 認定こども園等利用希望について(就学前児童のみ)

- 土曜・休日や長期期間中の定期的な教育・保育事業の利用希望について、『利用したい』(「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」の計)が土曜日で33.6%、日曜日・祝日で15.4%となっています。幼稚園を利用している人の場合、夏休み・冬休みなど長期休暇期間中で『利用したい』が58.0%と半数を超えています。

■土曜・休日の定期的な教育・保育事業の利用希望〈単数回答〉



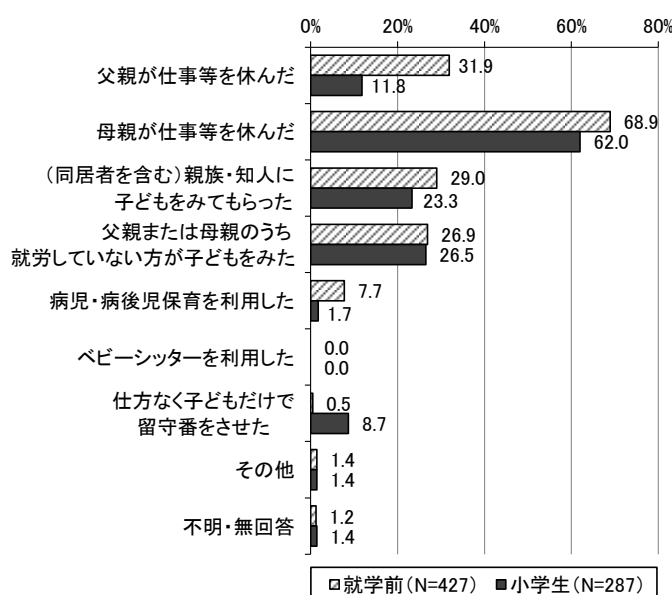
■幼稚園を利用している人の夏休み・冬休みなど長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望〈単数回答〉



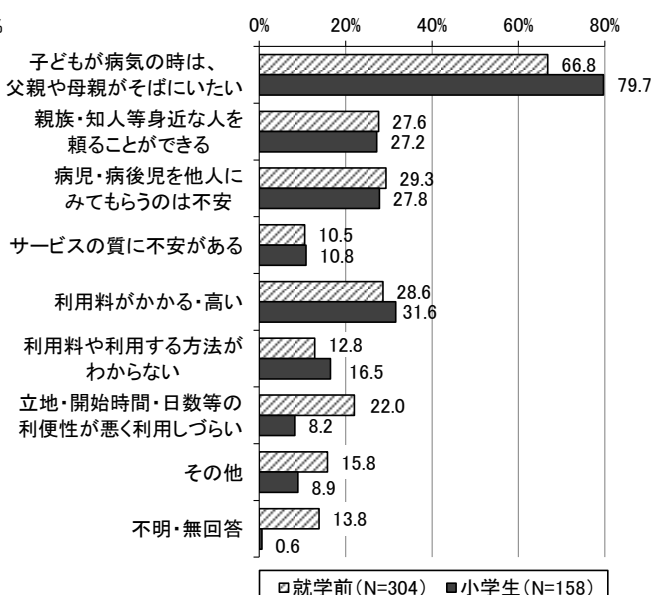
(5) 病気の際の対応について

- この1年間に、病気やケガのため教育・保育サービスが利用できない、または学校を休んだ場合の主な対応方法として、「母親が仕事等を休んだ」が就学前児童、小学生ともに6割以上と高くなっています。「病児・病後児保育を利用した」は就学前で7.7%、小学生で1.7%と低い結果となっています。また、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が就学前児童で0.5%、小学生で8.7%となっています。
- サービス等を利用したいと思わない理由については、「子どもが病気の際は父親や母親がそばにいたい」が6割以上と最も高くなっています。また、「利用料がかかる・高い」が就学前児童、小学生で3割前後、「立地・開始時間・日数等の利便性が悪く、利用しづらい」が就学前で22.0%となっています。

■ 休んだ場合の主な対応方法 〈複数回答〉



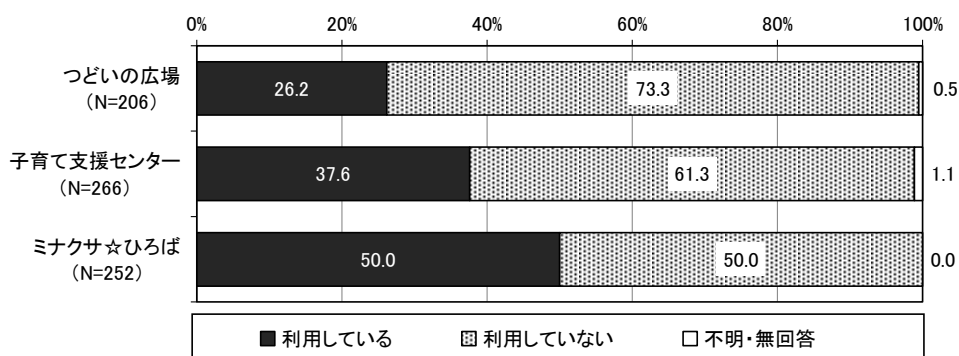
■ サービス等を利用したいと思わない理由 〈複数回答〉



(6) 地域の子育て支援事業の利用状況等について(就学前児童のみ)

- 平日、幼稚園や保育所（園）等の定期的な教育・保育サービスを利用していない人の各種事業の利用状況についてみると、つどいの広場では26.2%、子育て支援センターでは37.6%、南草津駅前ミナクサ☆ひろばでは50.0%の人が利用しています。

■ 定期的な教育・保育サービスを利用していない人の地域の子育て支援事業の利用状況 〈単数回答〉

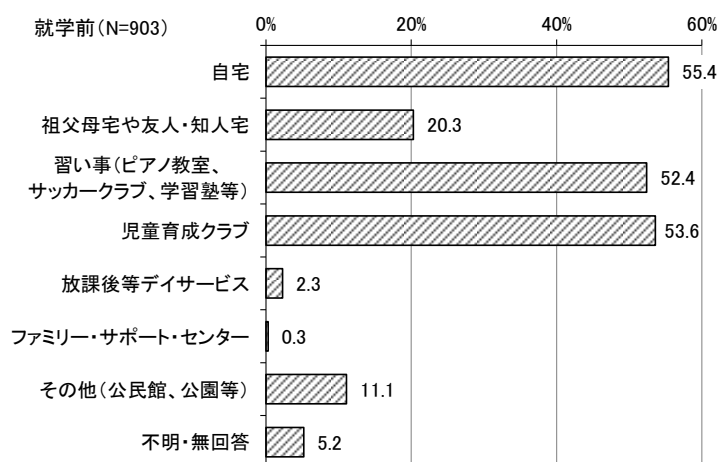


(7) 放課後の過ごし方について

- 就学前児童の就学後希望する放課後の過ごし方では、「自宅」「習い事」「児童育成クラブ」がそれぞれ50%程度と高くなっています。「児童育成クラブ」を利用したいという人の希望日数については、低学年の間も高学年の間も、週に「5日」を希望する人が半数以上となっています。
- 小学生の児童育成クラブの利用希望は、29.3%となっています。利用を希望する学年についてみると、希望者の6割程度は1～4年生まで、3割後半は5年生または、6年生までを希望しています。

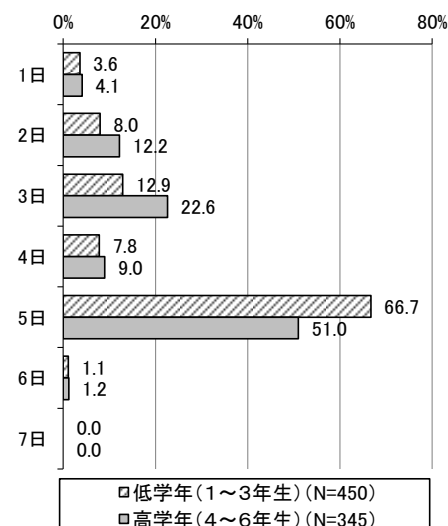
■就学前児童に希望する

放課後の過ごし方〈複数回答〉

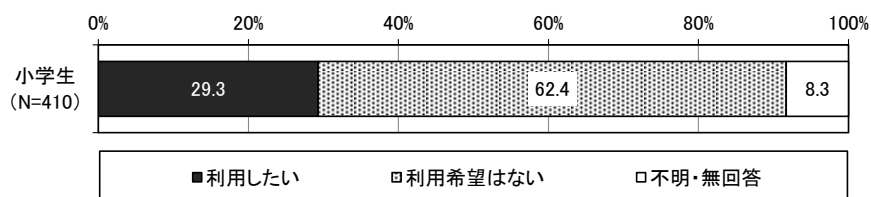


■児童育成クラブの週あたり

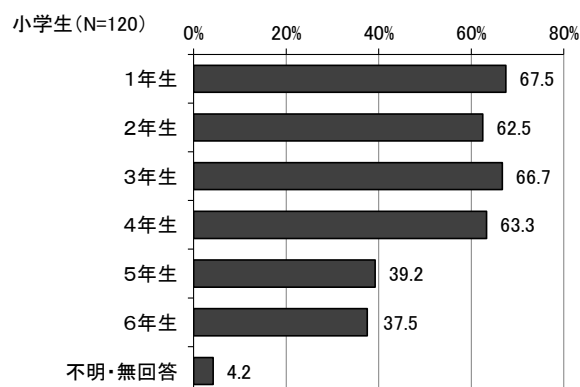
利用希望日数〈数量回答〉



■小学生の平日の児童育成クラブの利用希望〈単数回答〉



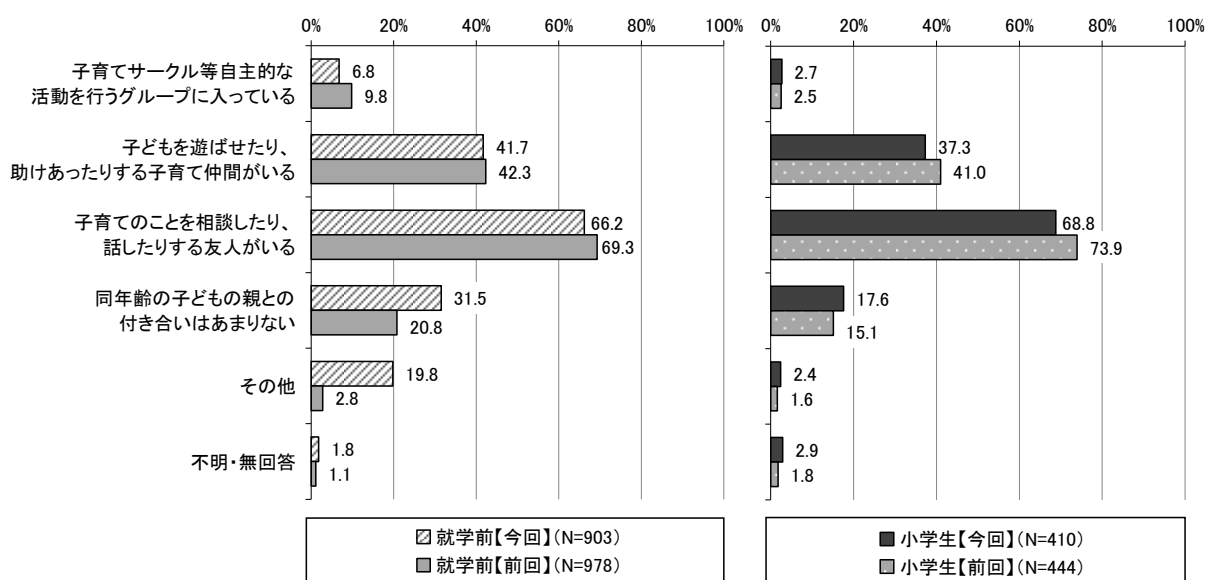
■小学生の平日の児童育成クラブの利用を希望する学年〈複数回答〉



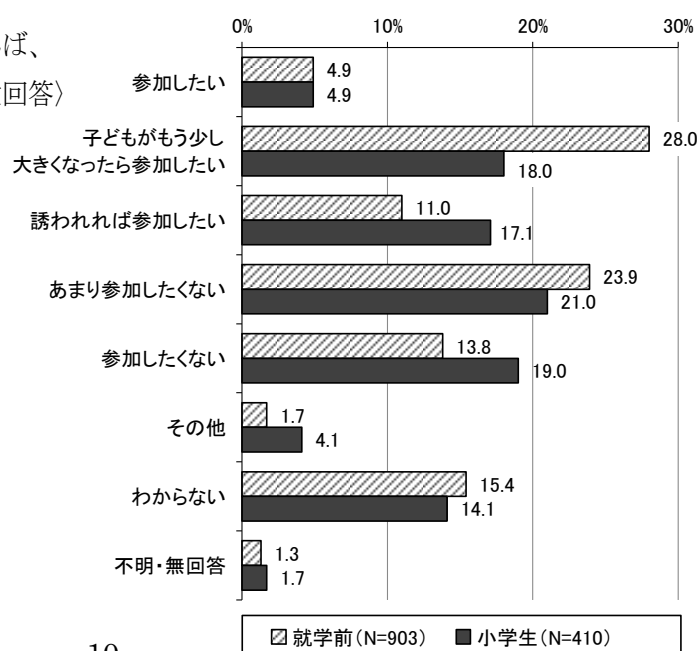
(8) 親同士のつながりについて

- 同年代の子どもを持つ親同士の付き合いについては、「子育てのことを相談したり、話したりする友人がいる」が就学前児童、小学生ともに6割台と最も高くなっています。一方、「同年代の子どもの親との付き合いはあまりない」は就学前児童で31.5%となっており、前回調査から10.7ポイント上昇しています。
- 子育ての経験を生かせる場や機会があれば、ボランティアとして参加したいかについては、「参加したい」は就学前児童、小学生ともに4.9%にとどまっていますが、「子どもがもう少し大きくなったら参加したい」が就学前児童で28.0%、小学生で18.0%、「誘われれば参加したい」が就学前児童、小学生ともに1割台と、地域の子育て支援の担い手となる可能性のある人が一定数います。

■ 同年代の子どもを持つ親同士の付き合い 〈複数回答〉



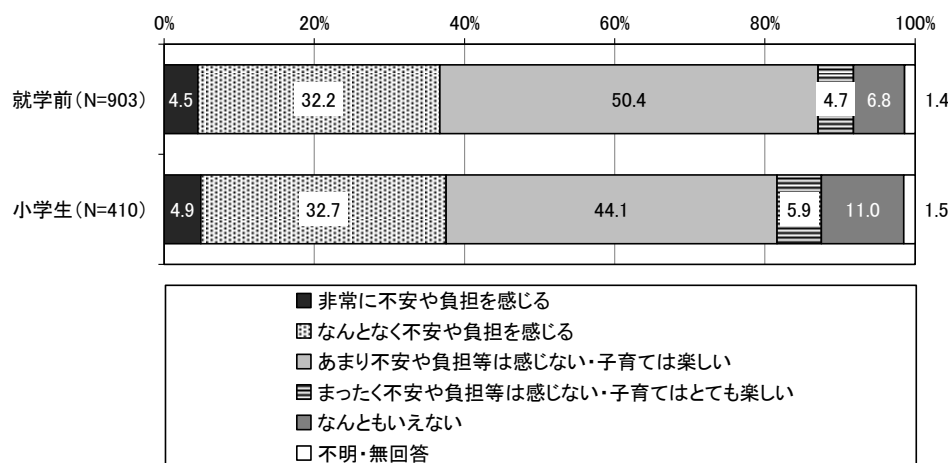
■ 子育ての経験を生かせる場や機会があれば、ボランティアとして参加したいか 〈複数回答〉



(9) 子育ての不安や悩みについて

- 子育てを楽しんでいるか、不安や負担を感じるかについては、『子育ては楽しいと感じる』（「あまり不安や負担等は感じない・子育ては楽しい」「まったく不安や負担等は感じない・子育ては楽しい」の計）が就学前児童、小学生ともに半数程度、『不安や負担を感じる』（「なんとなく不安や負担を感じる」「不安や負担を感じる」の計）が就学前児童、小学生ともに3割程度となっています。
- 子育てに関して、日頃悩んでいることや気になることについて年齢別にみると、就学前児童では、『0歳児』～『2歳児』では、「子どもの食事や栄養に関すること」、3歳児では、「子どもを叱りすぎているような気がする」、『4歳児』『5歳児』については、「子どもの病気や発育・発達に関すること」がそれぞれ最も高くなっており、子どもの年齢に応じて、保護者の悩みも変化していくことが分かります。

■子育てを楽しんでいるか、不安や負担を感じるか〈単数回答〉



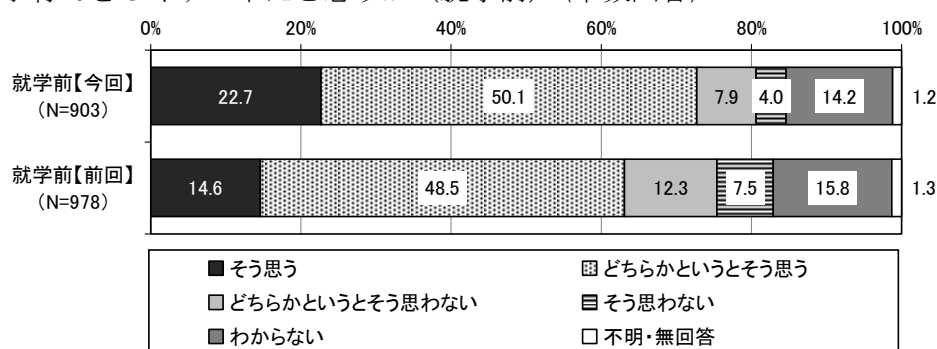
■子育てに関して、日頃悩んでいることや気になること（上位5位）〈単数回答〉

| 上段:度数 下段:% | 問22 子育てに関して、日頃悩んでいること、また気になることはどのようなことですか | | | | | | | | | |
|---------------|---|--------------------|-----------------|---------------------|---------------|-------------------|---------------------|---------------------------|--------------------|--|
| | 合計 | 子どもの病気や発育・発達に関すること | 子どもの食事や栄養に関すること | 子どもとの接し方・育児に自信が持てない | 子どもと接する時間が少ない | 子どもの友だち付き合いに関すること | 仕事や自分のやりたいことが十分できない | 配偶者や家族以外に子育てを手伝ってくれる人がいない | 子どもを叱りすぎているような気がする | |
| 全体 | 903 100.0 | 355 39.3 | 347 38.4 | 216 23.9 | 167 18.5 | 209 23.1 | 283 31.3 | 136 15.1 | 257 28.5 | |
| 0歳児 | 202 100.0 | 93 46.0 | 104 51.5 | 58 28.7 | 21 10.4 | 25 12.4 | 62 30.7 | 31 15.3 | 29 14.4 | |
| 1歳児 | 140 100.0 | 49 35.0 | 73 52.1 | 32 22.9 | 30 21.4 | 27 19.3 | 49 35.0 | 24 17.1 | 39 27.9 | |
| 2歳児 | 143 100.0 | 58 40.6 | 63 44.1 | 40 28.0 | 31 21.7 | 29 20.3 | 45 31.5 | 20 14.0 | 42 29.4 | |
| 3歳児(年少) | 143 100.0 | 51 35.7 | 34 23.8 | 37 25.9 | 29 20.3 | 36 25.2 | 50 35.0 | 24 16.8 | 55 38.5 | |
| 4歳児(年中) | 123 100.0 | 44 35.8 | 40 32.5 | 24 19.5 | 27 22.0 | 41 33.3 | 39 31.7 | 16 13.0 | 42 34.1 | |
| 5歳児(年長) | 140 100.0 | 53 37.9 | 25 17.9 | 24 17.1 | 26 18.6 | 49 35.0 | 34 24.3 | 20 14.3 | 47 33.6 | |
| 不明・無回答 | 12 100.0 | 7 58.3 | 8 66.7 | 1 8.3 | 3 25.0 | 2 16.7 | 4 33.3 | 1 8.3 | 3 25.0 | |

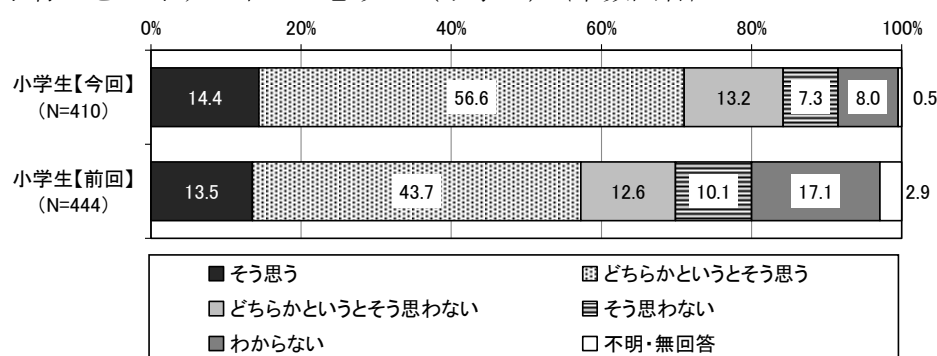
(10)市での子育てについて

- 草津市は子育てをしやすい市だと思うかについてみると、子育てしやすい市だと『思う』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の計）は、就学前児童、小学生ともに7割以上となっています。前回調査と比較すると、就学前児童で9.7ポイント、小学生児童で13.8ポイント増加しています。一方、子育てしやすい市だと『思わない』（「どちらかというと思わない」と「そう思わない」の計）も就学前児童で11.9%、小学生で20.5%となっており、子育て環境の充実に向けて、継続的に取り組んでいくことが求められます。

■草津市は子育てをしやすい市だと思うか（就学前）〈単数回答〉



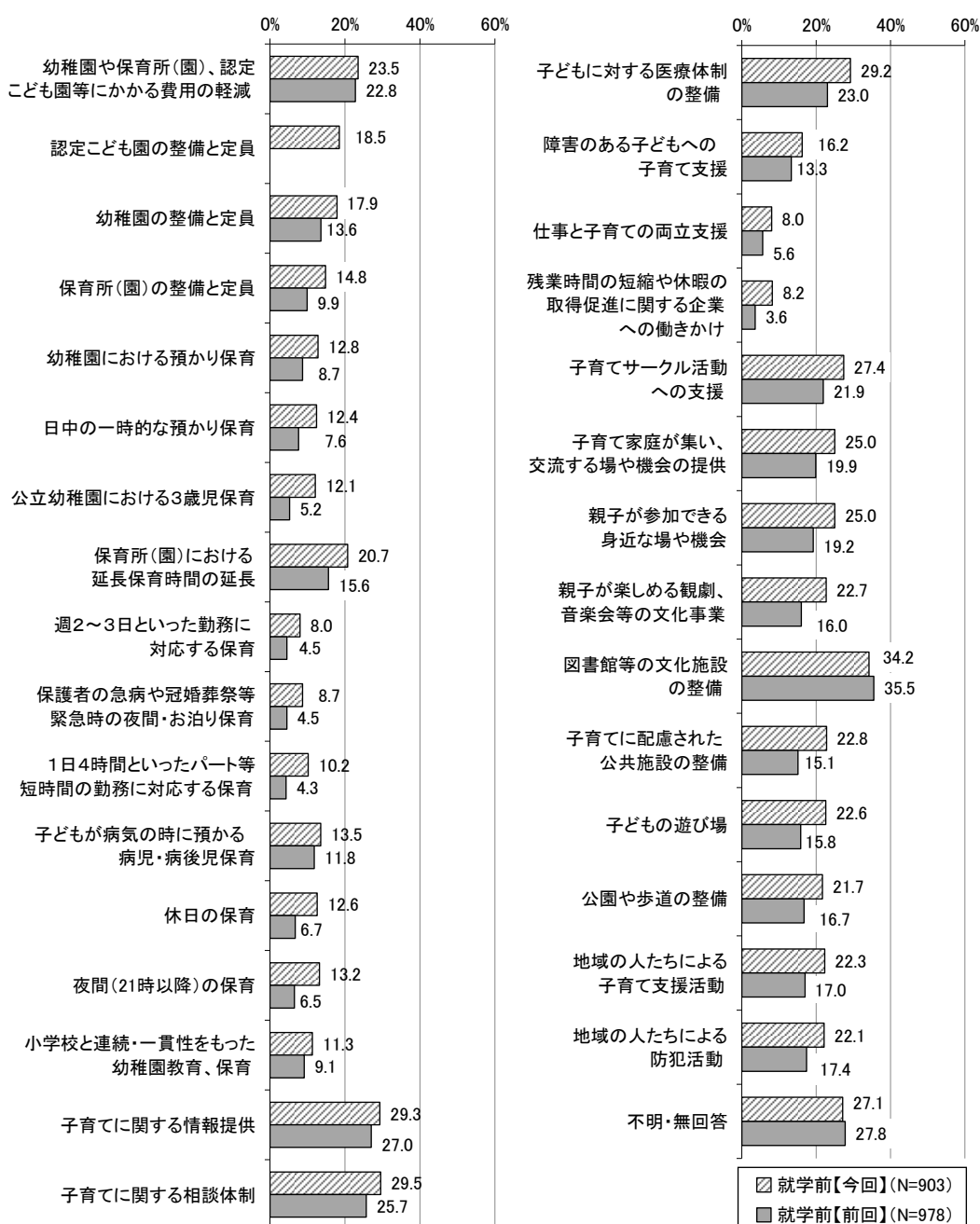
■草津市は子育てをしやすい市だと思うか（小学生）〈単数回答〉



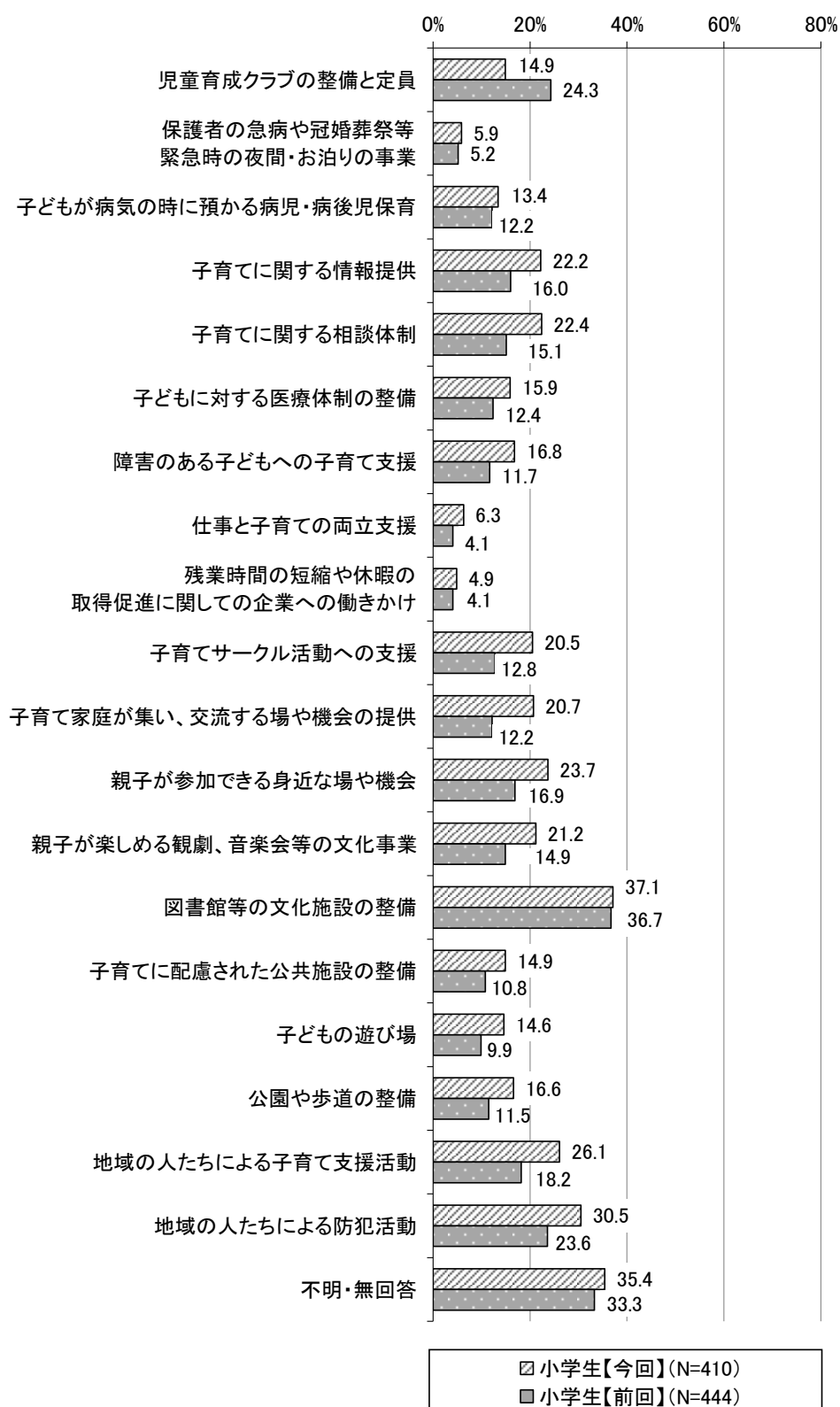
(11)市の子育てに関する取り組みについて

- 草津市の子育てに関する取り組みで、評価できる事業については、就学前児童、小学生ともに、「図書館等の文化施設の整備」が3割台と最も高く、次いで就学前児童では「子育てに関する相談体制」、「子育てに関する情報提供」、小学生では「地域の人たちによる防犯活動」となっています。また、多くの事業で前回調査から割合が上昇しています。
- 草津市の子育てに関する取り組みで、充実してほしい事業については、就学前児童では、「幼稚園や保育所（園）、認定こども園等にかかる費用の軽減」、「子どもの遊び場」が半数程度と高くなっています。前回調査と比較すると、「公立幼稚園における3歳児保育」が16.3ポイント減少しており、幼保一体化を進めてきた影響であると考えられます。

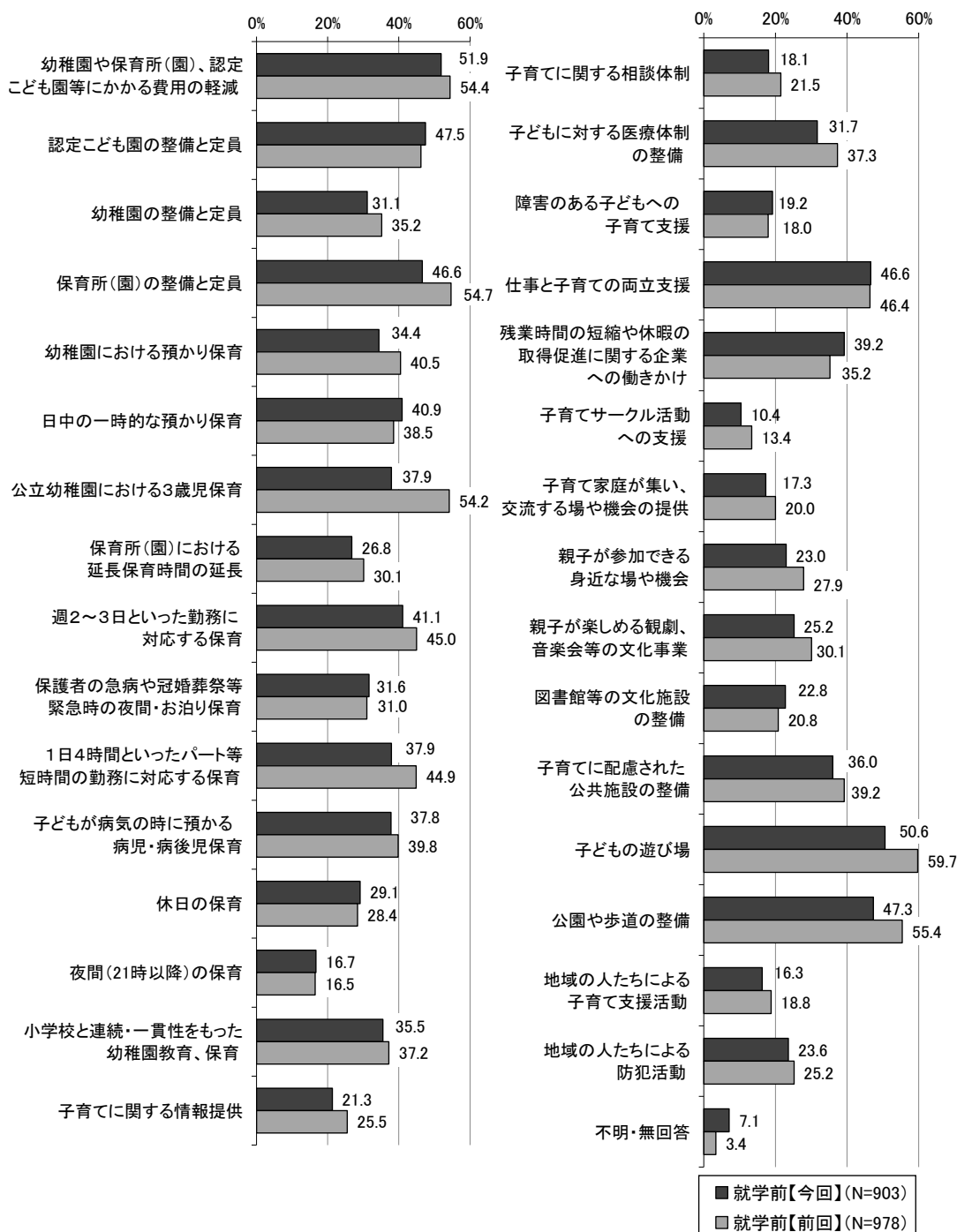
■草津市の子育てに関する取り組みで、評価できる事業（就学前）〈複数回答〉



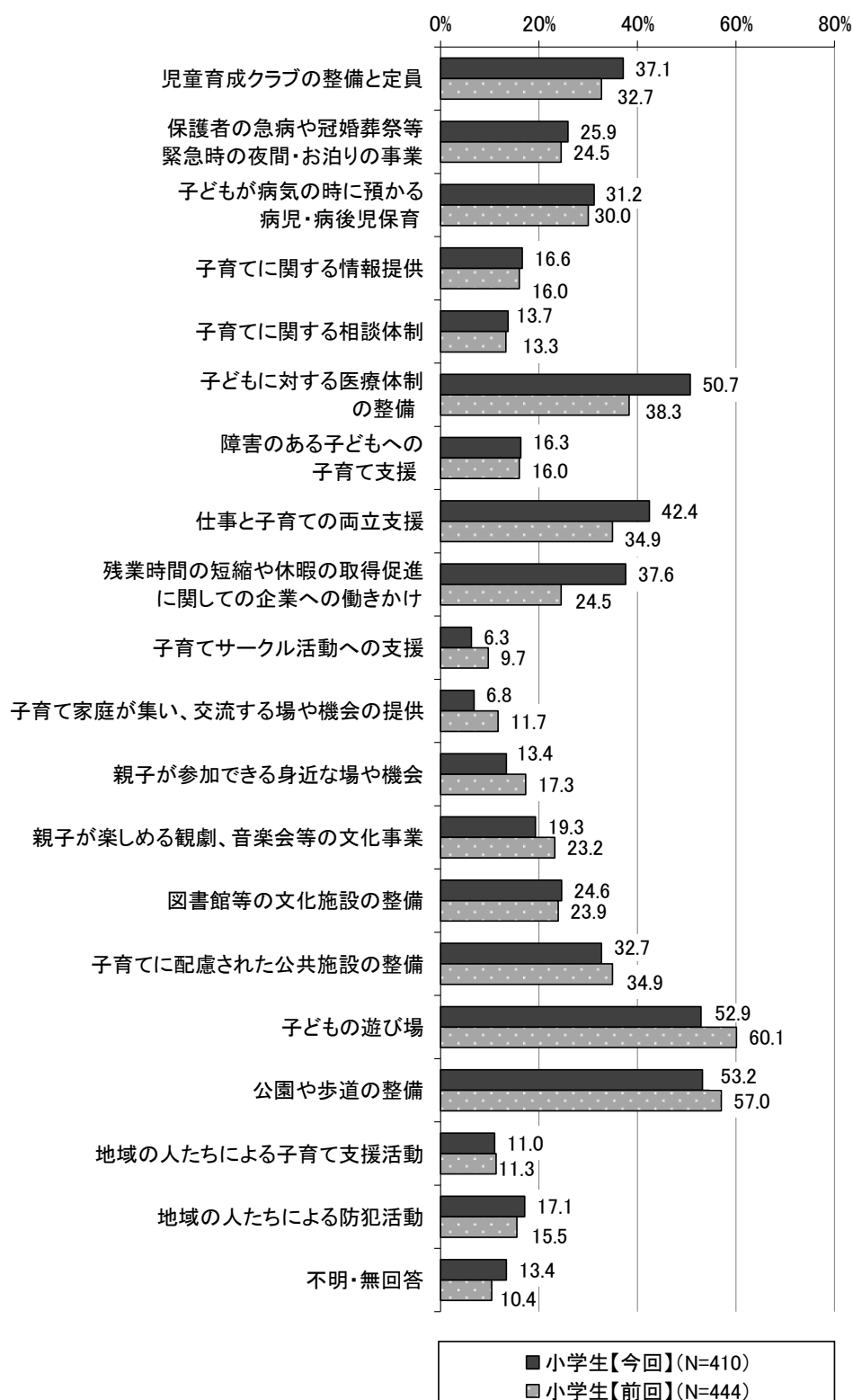
■草津市の子育てに関する取り組みで、評価できる事業（小学生）〈複数回答〉



■草津市の子育てに関する取り組みで、充実してほしい事業（就学前）〈複数回答〉



■草津市の子育てに関する取り組みで、充実してほしい事業（小学生）〈複数回答〉



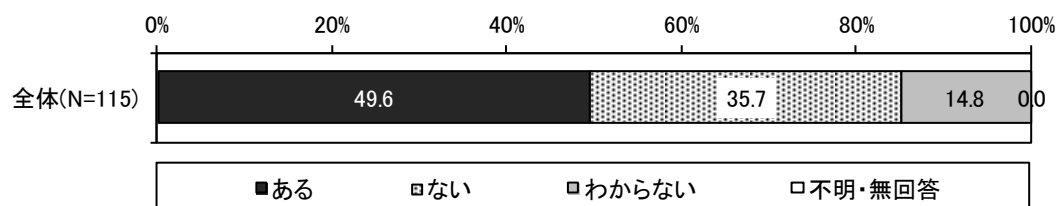
6 「子どもの貧困」対策のための支援者調査の結果

- ◆貧困状況にある子どもについては「健全な生活習慣・食習慣」や「こころの状態の安定性・心身の健康」の欠如がみられるという割合が高く、子どもの心身の健康や自己肯定感への影響が懸念されます。
- ◆もっと必要だと思う貧困状況に置かれた子どもや保護者への支援については、「自宅訪問による早期発見」や「保護者の就労支援」が高く、訪問型の相談支援と経済的な自立を見据えた就労支援の必要性を強く認識していることがうかがえます。
- ◆今後必要な支援に取り組むために、連携が必要な機関・団体については、「市 家庭児童相談室」が5割後半と最も高く、次いで「市 生活保護担当課」「県 中央子ども家庭相談センター」「市 ひとり親家庭担当課」等が2割台となっており、市関係課と多様な支援団体との連携体制の構築が求められています。

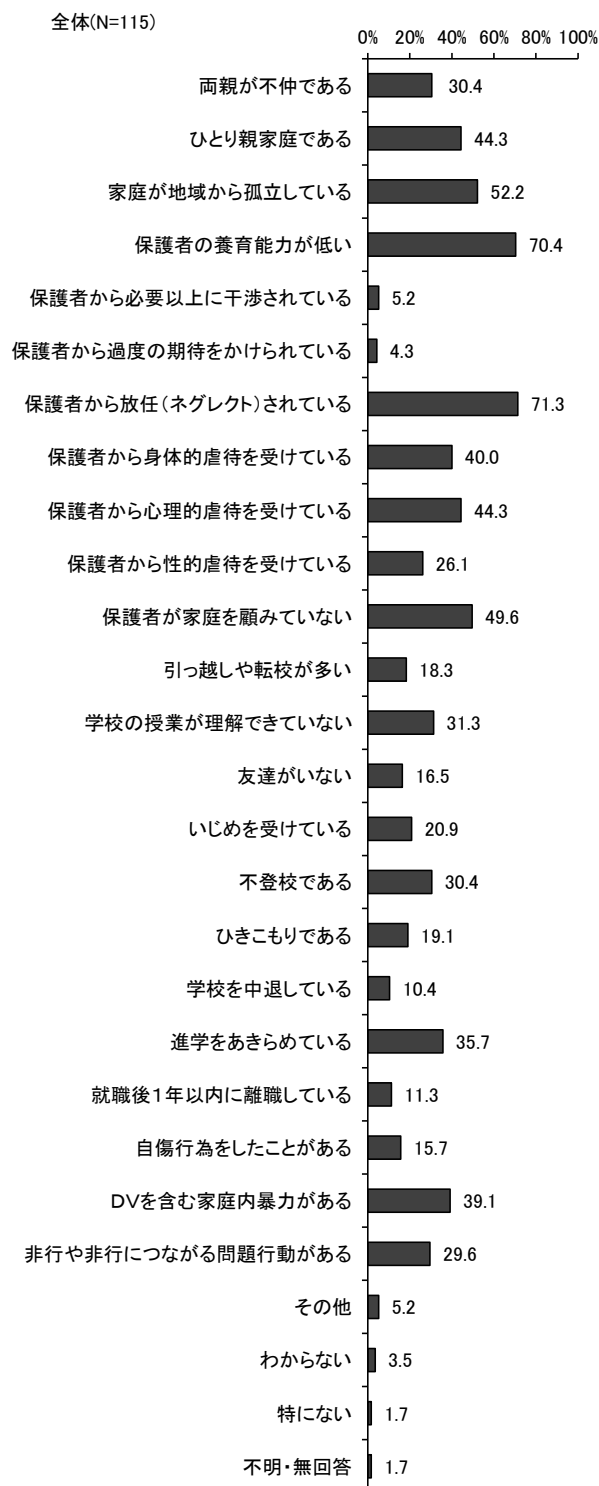
(1) 貧困状況にある家庭の状況について

- 貧困状況にある家庭の子どもや保護者に接することについては、「ある」が49.6%、「ない」が35.7%となっています。
- 貧困状況にあると思う子どもの状況については、「保護者から放任（ネグレクト）されている」が71.3%と最も高く、次いで「保護者の養育能力が低い」が70.4%となっています。
- 貧困状況にある子どもに見られる欠如していると思う項目については、「健全な生活習慣・食習慣」が83.5%と最も高く、次いで「こころの状態の安定性・心身の健康」が80.0%となっています。

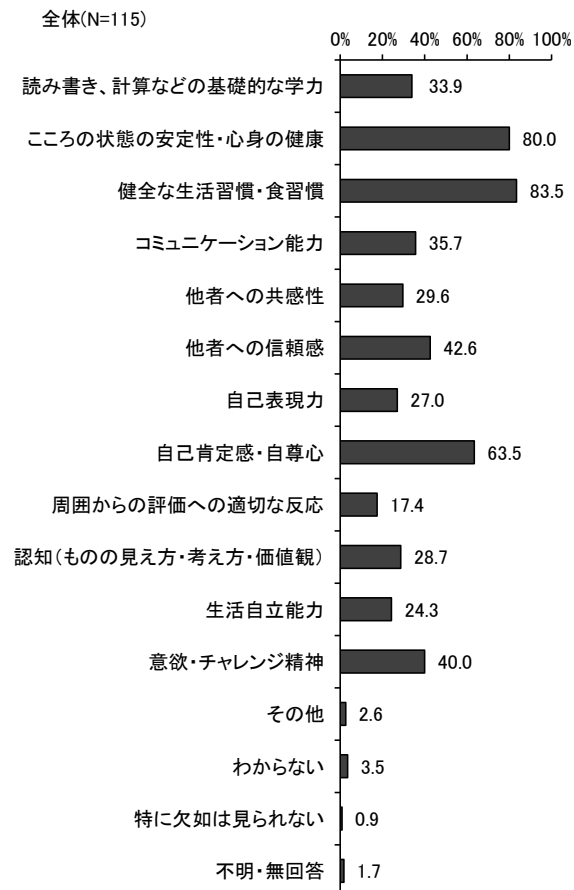
■ 貧困状況にある家庭の子どもや保護者と接することの有無〈単数回答〉



■ 貧困状況にあると思う子どもの具体的な状況 〈複数回答〉



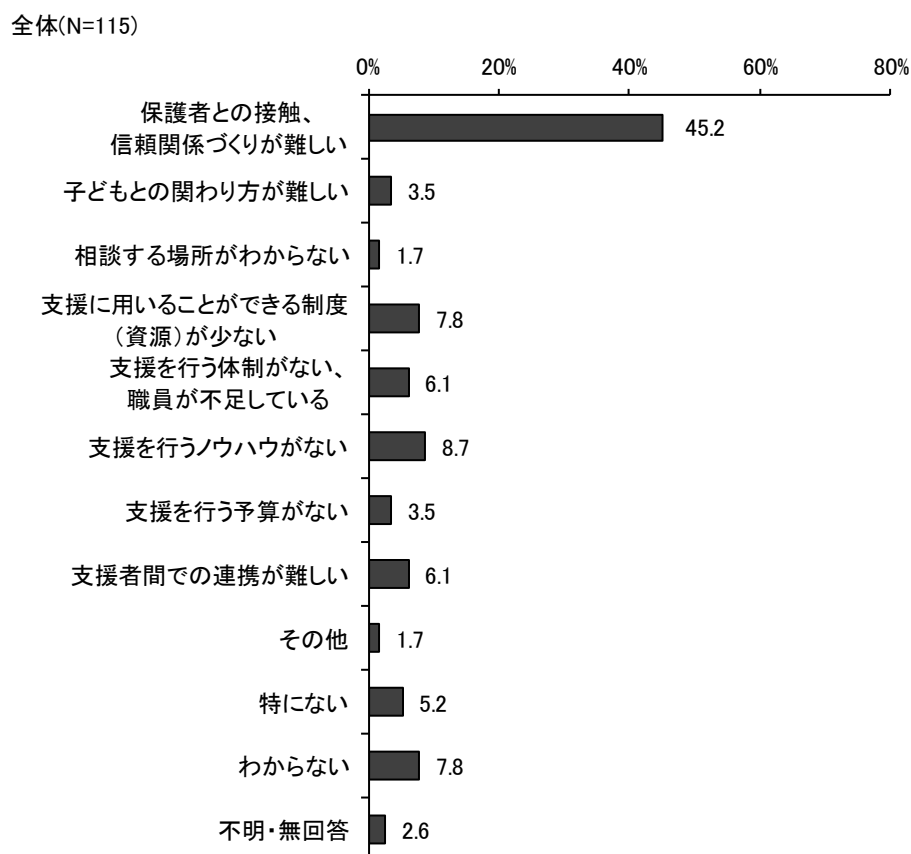
■ 貧困状況にある子どもは、どのような項目において欠如が見られると思うか 〈複数回答〉



(2) 実際に取り組む、貧困状況にある家庭への支援の状況について

- 貧困状況にある家庭への支援において、困難だと思う点については、「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい」ことが多くあげられ、保護者との関係形成に苦慮している現状がうかがえます。

■ 貧困状況にある家庭への支援にあたって、困難だと感じる点〈単数回答〉

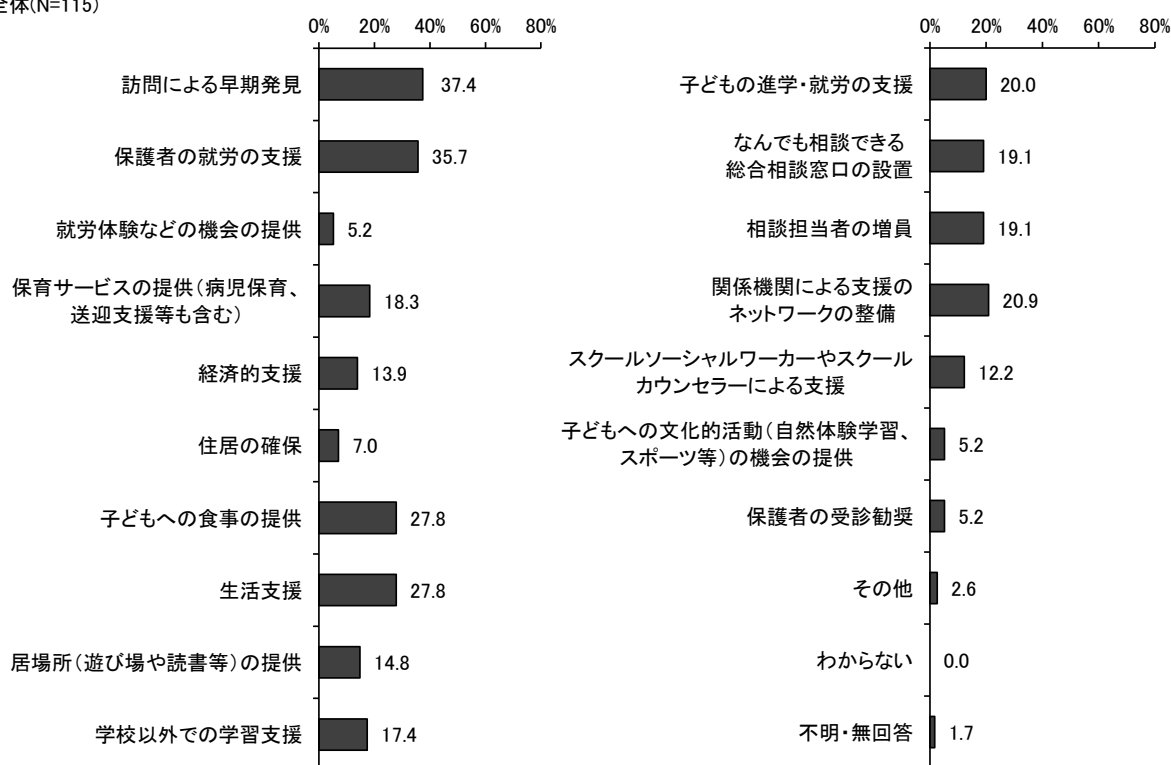


(3) 今後の貧困状況にある家庭に必要な支援について

- 一般的にもっと必要だと思う貧困状況に置かれた子どもや保護者の支援については、「自宅訪問による早期発見」が37.4%と最も高く、次いで「保護者の就労支援」が35.7%となっています。
- 今後必要な支援に取り組むために、連携が必要な機関・団体については、「市 家庭児童相談室」が58.3%と最も高く、次いで「市 生活保護担当課」が23.5%となっています。その他、「県 中央子ども家庭相談センター」「市 ひとり親家庭担当課」等が2割台となっています。

■ 一般的に貧困状況に置かれた子どもや保護者に対して、もっと必要だと思う支援〈複数回答〉

全体(N=115)



■ 今後必要な支援に取り組むため、連携が必要な機関や団体について〈複数回答〉

